

2019年5月実績概要(メモ)

(2019. 6. 20)

エチレン製造装置の定修増加がある中、誘導品では定修規模の増減等からまだら模様の生産。

1. 生産動向

イ) エチレン 501, 300トン

前月比 ▲2.7% (▲14,100トン)

前年同月比 +0.4% (+2,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+3.3%	-
定修要因等	▲6.1%	+1.9%
能力増減	-	+0.2%
稼働率変動	+0.1%	▲1.7%
生産増減率	▲2.7%	+0.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.7%→当月95.8%←前年同月97.2%

定修プラント：前月1社1プラント→当月2社2プラント←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加とともに定修規模の縮小や稼働率要因からLD、PP、EO、EG、SBR、BRなどの9品目がプラス。定修規模が増加したHD、PSのほか、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、トルエンなどの8品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等からPP、EO、EGなどの7品目がプラス。HD、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、SBR、ベンゼン、トルエンなどの10品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数の増加や稼働率要因からLD、PPはプラスとなった。HDは当月が今年一番の定修の集中月となったことから大幅なマイナス、PSは定修規模の増加からマイナスとなった。

前年比では、定修規模が縮小したLD、PPはプラス。HD、PSは定修規模の増加や稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、連休に伴うユーザー側の稼働日数の減少から、ほとんどの分野で出荷が減少した。特にLDはフィルム分野と加工紙分野、HD、PPは射出成形分野、PSでは包装分野等の減少幅が大きく4樹脂揃ってのマイナスとなった。

前年比では、LD、HDではフィルム分野における出荷減少が続いていることもありマイナスとなった。PPは前年が定修影響から出荷が制限された状態にあったが、本年は定修規模も縮小し、射出成形分野等の出荷増加からプラスとなった。PSは雑貨・産業分野、FS分野での増加がある一方、包装分野の出荷が減少し微減となった。

ハ) 輸出

前月比では、3月時点での大幅な増加以後に減少が続いており、当月はLD、PP、PSでマイナス、HDのみは前月並みとなった。

前年比では、国内向けの出荷が増加したPPとともに、在庫積み増し傾向にあるLDではマイナス。前年の輸出水準が低かったHD、PSではプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PPで増加し、HD、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、PPはやや上昇、HDは低下、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、PSは適正水準、HDはやや高め、PPはタイト気味となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LD	+12,100	3.2	3.3
HD	▲22,000	3.7	3.5
PP	+9,900	2.5	2.8
PS	▲7,500	1.5	1.5

以上